

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2022年 12月 18日	
所属部局・学年	野生動物研究センター・修士1年
氏名	小林知奈

<p>1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)</p> <p>京都市動物園(京都市)</p>
<p>2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)</p> <p>動物福祉実習</p>
<p>3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)</p> <p>2022年 12月 4日 ~ 2022年 12月 6日 (3日間)</p>
<p>4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)</p> <p>京都市動物園、生き物・学び・研究センター、主席研究員、山梨裕美氏</p>
<p>5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)</p> <p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>本実習では、動物福祉について学ぶことを目標に、京都市動物園にて3日間の実習を行った。</p> <p>【スケジュール】 12/4 「動物愛護」動物福祉にかんするレクチャー、観察 12/5 エンリッチメント道具の作成 12/6 エンリッチメント道具の作成、設置、観察</p> <p>【レクチャー】 山梨氏から、動物園におけるアンケート調査による研究について話を伺った。動物福祉については、学部生時代から授業で学ぶ機会があり、動物「愛護」という言葉や、外国と日本の意識の違いについては聞いたことがあったが、「飼育員と一般人の意識の違い」という視点を初めて持った。動物福祉について考えるためには、動物種の生態にかんする正確な知識が必要で、日本の教育現場でも、人間視点な感情論ではなく、動物視点で考えられるように、方向性が変わっていくと良いと感じた。また、動物園は動物福祉の教育現場として重要であるため、遠足などの学校行事での訪問も活用できるようになったらよいのではと感じた。</p> <p>【リクガメの観察】 私はカメチームに参加した。エンリッチメントや行動観察の対象動物として哺乳類が真っ先に思い浮かんだので、自分の視野を広げたいと考え、爬虫類であるカメチームを選んだ。 観察では、カメがどのようなパターンをもって活動し、どのような行動をとるのかを調べるため、シンプルな行動記録を行った。カメは、予想以上に不活発で、日光浴をしているように見える個体は全くと言っていいほど動かなかった。一方で、放飼場をぐるぐると回っている個体もあり、活動は必要だがオンとオフの切り替えがはっきりしているのではという印象を受けた。 一方で、採餌の時間は、非常に活発であった。他の個体に乗っかり乗られながら、マイペースに餌を食べていた。また、エサに対する嗜好性もあるようで、ある個体は青草を狙って自分のポジションを繰り返し変えていた。</p> <p>【エンリッチメント道具作成】 リクガメは、潜る穴や障害物となる木、餌場などがある広場に放されていた。飼育員から話を伺い、「カメがエサを食べるときに、首を伸ばす必要があるようなフィーダー」があったら、という希望を受けた。</p>

第一案は、紐で青草を縛ってつるすというものだった。広場にある木を利用してひっかければ、どの餌場でも使え、長さが調節できるからである。この案を試すと、青草が揺れてしまってカメがうまく草を捕まえられない・青草の量の調節が難しい、といった課題があった。しかし、カメは一生懸命首を伸ばして食べようと試みており、着想はカメの活動を活発にする一助になりそうだと判断できた。

これを踏まえた最終案は、高さ調節のできるネット式のフィーダーである。カメの体高および首の伸ばせる範囲を確認し、段階的にネットの位置を変えられるようにデザインした。ネットは、消防用ホースを切ったものを編んで作成した(右図)。

広場にある木を利用してひっ



【エンリッチメント道具の設置】

完成したものを、リクガメの放飼場に設置した。ネットが視界の妨げになるのか、青草がのっていることにカメたちが気づくまで時間がかかったが、一度発見すると、熱心に草をつまもうとする個体があられた。「エサが頭上にある」「どうやってネットの上の草を食べるか」という新たな発想を提供する点、そして首を伸ばしてエサを食べるといった新たな活動を活発にする点で、このフィーダーの設計はよかったと考えられる。しかし、時間がたち多くの個体が集まると、カメがフィーダーの内側で渋滞してしまい、サイズや構造の問題点が見えた。カメの運動機能が低いことを踏まえたうえで支柱の間隔をより広い幅にする・支柱をより丈夫で細い軸にする、などの改善点が考えられるだろう。

(左図：実際に設置した様子 右図：完成したフィーダー)

【まとめ】

本実習を通し、類を問わず、動物福祉を考えるうえでエンリッチメントは必要であるということを感じた。今後は自らも視野を広く持ち、様々な動物の生態に興味をもって学びたいと思う。



6. その他 (特記事項など)